

はにい

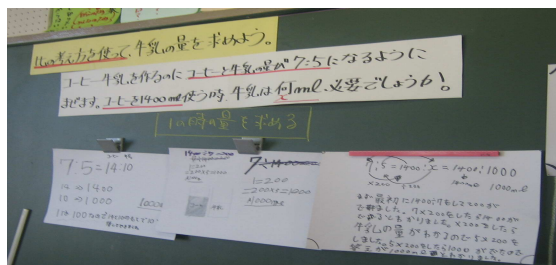
コーヒー牛乳

平成24年9月27日

この学校では「豊かな人間関係を築ける児童の育成」をテーマとして授業に取り組んでいます。

6年生の教室。算数、比の学習。

「コーヒー牛乳を作るのに、コーヒーと牛乳の量の比が7：5になるように混ぜます。コーヒーを1400ml使う時、牛乳は何ml必要でしょうか。」



先生に指名された子は、緊張した表情で、自分の説明図を持って発言しはじめました。

「7：5＝14：10それを100倍して1400：1000だから1000ml」

すると、すぐに質問が出ました。

「なぜ2倍してから100倍したの。はじめから200倍すればいいんじゃない。」

発表した子は困ってしまって、「ん～」と考え込んでいます。すると別の子が話します。

「それじゃわかりにくかったから、ちょっとずつ分けてやったってことでしょ。」

「いきなり200倍はわからないけど、これならわかる。」

「そうだね。わからないときは分けて考えるといいよね。」

「うん、うん。」

友だちの発言に助けられ、発表した子の表情が、ほっ、と和らぎました。席に戻ろうとするとみんなから自然に拍手が起きました。

小川先生は教員9年目。「はじめは人間関係と教科指導という研究テーマがよくわからなかったんです。でもいろいろな先生の授業を見て、授業の中で人間関係を作るということがつながってきて、・・・」人間関係を見るには、もっと一人ひとりの子どもが見えるようになりたい。どうしたらいいか。そこで、積極的に授業研究に取り組んで、いろいろな先生に授業を見てもらった。すると、自分が見えていなかった子どもの様子を知ることができた。授業研究で、事前に教材研究を十分にして、それが自分の中にきちんと入ると、余裕ができて子どもが見えるようになった。さらに、日々の生活の中で学級の子どもの性格や悩みを知ること、授業の中で子どもが言っていることの、本当の気持ちや隠されている意図をわかろうとするようになった、と言う。

今は「子どもたちそれぞれの家ではいろいろなことがあって、子どもたちはいろいろな思いで学校に来ている。同じように接しても、満足できない子もいます。どの子も満足できる授業にしたい。」

学校からは海が見えます。一瞬、波の音が聞こえたような気がしました。